

2019年12月期 第1四半期決算 Q&A資料



CNC立形複合研削盤
CVG-6

株式会社 太陽工機
(証券コード:6164)

【質問】

- Q:2019年度第1四半期の業績について? P3
- Q:2019年度第2四半期以降の受注の見通しは?P4
- Q:2019年度の通期業績の見通しは?P4
- Q:2019年度の生産能力について? P5

Q:2019年度第1四半期の業績について？

A: 2019年第1四半期の受注金額は、前四半期(2018年10-12月期)比15.9%増の26.7億円(台数63台)となりました。工作機械関連企業向けが同77.3%増の6.8億円(前四半期3.8億円)と寄与し、産業機械関連向けは11.0億円、自動車関連向けは5.6億円と、ほぼ横ばいを維持できました。

売上は、前四半期比2.8%増の27.4億円、台数は69台となりました。大型機の増加により、一台当たりの売上金額が上昇しました。利益については、営業利益は548百万円(前四半期比15.0%増)、営業利益率は20.0%(同2.1ポイント増)と、共に大幅に上昇しました。付加価値の上昇に加え、昨年度より取り組んでいる作業効率の改善や複数台ロット生産による生産効率アップにより製造コストが低減し、売上原価率が67.4%(前四半期売上原価率68.1%)に改善したことが寄与しました。

2019年度第1四半期の業績は、売上、利益(営業利益・経常利益・当期純利益)において四半期別での過去最高を更新しました。2019年度のスタートとしては、当初計画どおりに順調に推移しております。

Q:2019年度第2四半期以降の受注の見通しは？

A: 四半期別の受注実績は、2018年度第2四半期の月平均12.8億円をピークに、同第4四半期では同7.6億円まで減少していましたが、2019年度第1四半期には同8.9億円へと増加しました。依然として、米中摩擦の影響による先行き不透明感やリードタイムが約1年と延びていること等を理由に、お客様がご注文を見合わせるケースが見受けられますが、現状の生産能力である月平均9億円の受注水準をほぼ確保できています。

2019年度第2四半期以降は、引き続き、産業機械関連や自動車関連、工作機械関連企業向けを中心に底堅く推移すると考えております。また、半導体関連向けでは、5G関連の設備投資への期待感を受け、需要の取り込みに力を入れます。

月平均9億円を受注金額のベースラインとして、各展示会で積極的な営業活動を展開し、特に海外受注金額の拡大を図ってまいります。

Q:2019年度の通期業績について？

A: 今のところ、2019年度の通期業績予想に変更はございません。売上は10,800百万円、営業利益1,920百万円(営業利益率17.8%)、当期純利益1,310百万円(当期純利益率12.1%)を計画しています。第2四半期以降も、月平均9億円の売上を最低ラインとして更なる売上増とコスト低減を図り、過去最高の売上と利益を目指してまいります。

Q:生産能力について？

A: 現状の生産能力は、月平均売上金額で約9億円(台数約25台)を見込んでおります。2019年度第1四半期の売上実績は、大型機の集中により、月平均台数では23台にとどまりましたが、金額ベースでは月平均9億円を確保しました。昨年度は、第2四半期が生産の谷間となりましたが、2019年度は四半期ごとに平準化された生産により、金額ベースで月平均9億円を維持できる見込みです。更なる生産能力の増強へ向けて、人材の確保、人材育成・スキルアップ、地元協力会社の活用による標準工程の組立外注化など、作業効率の改善に取り組んでおります。

お取り扱い上のご注意

本資料は、当社をご理解いただくために作成したのもので、当社へ対する投資の勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の情報は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであります。

お問合せ先 株式会社太陽工機 管理部

TEL : 0258-42-8808

URL : <http://www.taiyokoki.com>